

本岡武教授略歴

大正4年(1915)

- 2月27日 本籍地：兵庫県明石市中町15(町名改称で現在は本町2丁目115)に生まれる。
父は本岡武助，母はたま。戸籍上は次男であるが，長男が幼逝したので，実際上は長男。

大正10年(1921)

- 4月 明石市立第一小学校入学。
8月12日 父武助死去。

大正12年(1923)

- 4月 同上小学校廃校にともない，新設の明石市立尋常高等小学校に転校。(昭和2年3月卒業)

昭和2年(1927)

- 4月 兵庫県立第二神戸中学校入学。(同7年3月卒業)

昭和7年(1932)

- 4月 兵庫県立神戸高等商業学校入学。(同10年3月卒業)

昭和10年(1935)

- 4月 京都帝国大学農学部農林経済学科入学。

昭和11年(1936)

- 7月～8月 中華民国および満洲国に旅行する。
9月～10月 満洲国に旅行する。(京都帝国大学農学部橋本伝左衛門教授に随行して満洲開拓移住地調査)

昭和13年(1938)

- 3月 京都帝国大学農学部農林経済学科学士試験合格。(農学士)
4月 京都帝国大学大学院入学。(農業経済学専攻。指導教授橋本伝左衛門博士。)
6月10日 京都帝国大学農学部副手を嘱託される。
7月～8月 満洲国へ出張を命ぜられる。(満洲開拓地学徒実習団の橋本伝左衛門団長秘書として)

昭和14年(1939)

- 4月 京都帝国大学大学院特選給費生を命ぜられる。

昭和15年(1940)

- 3月31日 京都帝国大学助手に任じられ，農学部勤務を命ぜられる。
7月10日 満洲国へ出張を命ぜられる。(満洲開拓地瑞穂村調査に学生5名を引率して出張。8月23日帰国。)

昭和16年(1941)

- 12月 京都市左京区北白川小倉町40に転住。今日に至る。

昭和17年(1942)

- 1月4日 熊本県上益城郡嘉島町上島2686，飯田正千代長女千代子と結婚。

昭和18年(1943)

- 1月1日 長男克一郎出生。(同年3月28日幼逝)

昭和19年(1944)

4月23日 長女弥生出生。

昭和20年(1945)

6月24日 母たま、戦災のため死去。

昭和22年(1947)

2月15日 次男俊郎出生。

4月 兵庫県立神戸高等商業学校非常勤講師を嘱託される。(農業政策担当。昭和30年まで。)

昭和24年(1949)

2月23日 京都大学助教授に補せられ、農学部勤務を命ぜられる。

昭和25年(1950)

4月 京都大学農学部で開講。(農業地理学・農業協同組合論・農業開発論・外国書講読などを担当。外国出張期間中をのぞき定年まで講義。)

9月15日 三男武郎出生。

昭和28年(1953)

4月1日 京都大学大学院農学研究科の授業担当を命ぜられる。(外国出張期間中をのぞき定年退官まで。はじめは比較農業論のち農業開発論を担当。)

昭和32年(1957)

10月10日 インドへ出張を命ぜられる。〔ニューデリーで開催された国連食糧農業機構・経済文化協議会 <(Council on Economic and Cultural Affairs) 現在の農業開発財団 (Agricultural Development Council) の前身> 共催農業経営セミナーに1カ月出席ののち、インド・セイロン・ネパール・パキスタンの各国を旅行し、そのあと在イラン日本大使山田久就氏の依頼でカスピ海沿岸における日本模範農家移住計画を調査立案。翌年2月3日帰国。〕

昭和33年(1958)

4月12日 主論文「日本農業の地域類型にかんする農業地理学的研究——特に佐賀平野と善光寺平との農業地理学的特質について——」参考論文「自然的基礎からみた東洋農業の特質とその地域構成」をもって、京都大学から農学博士の学位を授与される。(主査は渡辺庸一郎教授)

6月1日 名古屋大学農学部講師に併任される。(任期同年10月15日まで)

10月16日 京都大学教養部における昭和33年度授業担当を命ぜられる。(地理学担当)

昭和34年(1959)

6月1日 アメリカ合衆国へ出張を命ぜられ出発。(経済文化協議会給費生として7月～8月ミシガン大学で英語の特訓を受け、9月から翌年6月までコーネル大学大学院在学、H. コンクリン教授につき土地経済学を専攻。その後、フランス・ベルギー・オランダ・デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・西ドイツ・オーストリア・スイス・イタリアの各国を旅行し、翌35年8月8日帰国。)

昭和36年(1961)

3月21日 アメリカ合衆国・連合王国・フランス・オランダ・ビルマ・タイ・シンガポールおよびマレーシアの各国へ出張を命ぜられ出発。東南アジア研究センター設立準備のため欧米諸国における東南アジア研究事情ならびに東南アジア諸国の実情調査のための調査団(団長文

本岡武教授略歴

学部白井二尚教授，ほかに文学部棚瀬襄爾助教授が参加)の一員として各国視察，9月12日帰国。その後東南アジア研究センター設立のために努力する。

昭和37年(1962)

- 1月1日 名古屋大学農学部講師に併任される。(任期は同年3月31日まで)
- 4月1日 京都大学大学院文学研究科(地理学専攻)の授業担当を命ぜられる。(外国出張期間中をのぞき定年まで農業地理学を講義する)
- 7月10日 京都大学東南アジア研究計画準備委員会幹事を命ぜられる。(昭和40年4月1日の東南アジア研究センター官制化まで)

昭和38年(1963)

- 4月1日 京都大学の学内措置として東南アジア研究センターが設置され，事務所が京都大学楽友会館の一室(のち，京都市左京区吉田下阿達町41の旧農林省京都統計事務所あとの建物)に置かれ，もっぱらセンター開設の準備に従事する。
- 5月7日 京都大学東南アジア研究センターにおける研究担当を命ぜられる。(昭和40年4月1日の東南アジア研究センター官制化まで)
- 9月13日 フィリピン・タイ・ビルマおよびインドネシアの各国へ出張を命ぜられ出発。(東南アジア研究センター・バンコク連絡事務所をバンコクに設立し，あわせてタイ農業開発の研究に従事し，その間ビルマ・フィリピン諸国を訪問。翌年4月19日帰国。)

昭和39年(1964)

- 10月12日 タイ・ビルマおよびインドネシアの各国へ出張を命ぜられ出発。(前回の出張にひきつづきバンコク連絡事務所の事務を担当するとともに，タイ農業開発にかんする研究に従事。翌年1月20日帰国。)

昭和40年(1965)

- 6月1日 4月1日付の京都大学東南アジア研究センターの官制化にともない，京都大学教授(東南アジア研究センター)に昇任させられる。
- 6月12日 フィリピンに出張を命ぜられる。(フィリピン大学政治学部設立記念祝典ならびにセミナーに出席。同月20日帰国。)
- 10月1日 タイおよびマレーシアへ出張を命ぜられ出発。(前回の出張にひきつづきバンコク連絡事務所の事務を担当するとともに，タイ農業開発の研究に従事。翌年3月11日帰国。)

昭和42年(1967)

- 7月22日 シンガポール・マレーシアおよびタイの各国へ出張を命ぜられ出発。(福田繁文部次官の東南アジア教育事情視察に随行。同月28日帰国。)
- 8月12日 アメリカ合衆国へ出張を命ぜられ出発。(ミシガン大学で開催された国際歴史学会に出席し，京都大学東南アジア研究センターの活動状況について講演。同月27日帰国。)
- 10月28日 フランスへ出発を命ぜられ出発。(パリで開催されたユネスコ・国連食糧農業機構・国際労働機構共催「農業教育および訓練にかんする国際諮問委員会」委員に任命され，委員会に出席。11月16日帰国。)

昭和43年(1968)

- 1月25日 アメリカ合衆国へ出張を命ぜられ出発。(ホノルルで開催されたアメリカ東南アジア開発グループ〈SEADAG〉主催の東南アジア開発セミナーに出席。2月1日帰国。)
- 3月31日 フィリピン・インドネシア・マレーシアおよびタイの各国へ出張を命ぜられ出発。(主と

してインドネシア農業開発にかんする予備調査をおこなう。7月10日帰国。)

- 4月1日 文部省日本研究講座に関する連絡会委員を委嘱される。(47年12月18日まで)
- 8月18日 フィリピンへ出張を命ぜられ出発。(アジア開発銀行のインドネシアにかんする業務依頼の打合せのため。同月21日帰国。)
- 10月2日 アジア開発銀行へ出向のため京都大学を休職させられる。(同日出発しマニラの同銀行と打合せののち、インドネシア農務省顧問団団長としてジャカルタに派遣される。)

昭和44年(1969)

- 6月22日 ジャカルタからアメリカ合衆国に赴く。(ニューヨークにおける東南アジア開発グループ主催の「東南アジアにおける農業イノベーション」にかんする会議に出席。7月3日ジャカルタに帰任。)
- 12月6日 ジャカルタからフランス・スペイン・ギリシャ・トルコの各国へ赴く。(パリで開催されたユネスコ・国連食糧農業機構・国際労働機構共催「農業教育・研究および訓練にかんする諮問委員会」に出席。その他の各国を旅行して、12月21日ジャカルタに帰任。)

昭和45年(1970)

- 4月1日 帰国、職務に復帰せしめられる。
- 7月24日 デンマークおよびフランスへ出張を命ぜられ出発。(コペンハーゲンで開催されたユネスコ・国連食糧農業機構・国際労働機構共催「世界農業教育会議」に専門家として出席したあと、パリのユネスコ本部で農業教育にかんする打合せ。8月14日帰国。)
- 9月29日 農林省農林水産技術会議専門委員に併任される。(翌46年5月31日まで)
- 10月6日 タイ・インドネシアおよびフィリピンの各国へ出張を命ぜられ出発。(主としてインドネシアにおいて米増産ビマス計画の研究をする。11月4日帰国。)
- 10月31日 アジア経済研究所調査協議委員会委員を委嘱される。(昭和50年10月31日まで)

昭和46年(1971)

- 2月8日 フィリピンへ出張を命ぜられ出発。(ユネスコ主催農業教育巡回コースの講師として中部ルソンのマニョオスにある中央ルソン大学で講義。3月19日帰国。)
- 4月1日 財団法人ユネスコ・アジア文化センター評議員を委嘱される。(48年3月31日まで)
- 5月9日 フランスおよびイタリアへ出張を命ぜられ出発。(パリのユネスコ本部において世界農業教育会議の結果について打合せをし、ついでローマで開催されたユネスコ・国連食糧農業機構、国際労働機構共催農業教育・研究および訓練の第2回諮問委員会に出席。5月26日帰国。)
- 6月2日 高知大学農学部講師に併任される。(同年10月10日まで)
- 10月10日 長女弥生、八星元彦と結婚。
- 10月30日 インドへ出張を命ぜられ出発。(ニューデリーで開催された国際労働機構主催のアジア農業開発セミナーで講師として講義。ひきつづきインド政府の招待で水稻新品種導入状況を視察。印パ戦争勃発のため、予定より4日早く、12月10日帰国。)

昭和47年(1972)

- 2月6日 フィリピン・タイ・マレーシア・シンガポールおよびインドネシアの各国ならびに香港へ出張を命ぜられ出発。(関西経済連合会の東南アジア経済視察団団長として上述の各国の経済事情を視察。ひきつづきインドネシアに3週間滞在してビマス計画を補遺調査。3月23日帰国。)

本岡武教授略歴

- 6月10日 アメリカ合衆国へ出張を命ぜられ出発。(ワシントンの国際復興開発銀行〈世界銀行〉本部において同銀行農業部の実施したインドネシア農業調査報告の作成について協力。同月25日帰国。)
- 8月19日 初孫八星和子出生。
- 9月10日 アメリカ合衆国・ナイジェリア・イタリアおよびフランスの各国へ出張を命ぜられ出発。
(野村総合研究所の第1回ナイジェリア経済事情調査に参加して農業部門を担当、同国を広く旅行するとともに、上記各国を関係資料収集のため訪問。10月2日帰国。)
- 10月5日 大韓民国へ出張を命ぜられ出発。(ソウルで開催された国連食糧農業機構主催の第4回アジア農業統計会議に出席。10月13日帰国。)
- 昭和48年(1973)
- 3月26日 タイおよびインドネシアへ出張を命ぜられ出発。(インドネシアのビマス計画のその後の発展にかんする補遺調査およびタイの最近の農業発展を調査。4月16日帰国。)
- 昭和49年(1974)
- 1月30日 孫八星陽子出生。
- 9月5日 連合王国へ出張を命ぜられる。(レッドィング大学において開催された「農業における変化」にかんする国際セミナーに出席。同月18日帰国。)
- 9月17日 国際連合アジア太平洋地域経済社会委員会1974年総会日本政府代表顧問を命ぜられる。
(9月27日免ぜられる)
- 9月30日 国際連合食糧農業機構(在ローマ)に日本政府より派遣せられ出発。(同機構農地制度生産構造部長に就任のため)
- 昭和50年(1975)
- 4月1日 日本へ出張を命ぜられ出発。(国連食糧農業機構のアジア総合農村開発センター設立にかんし、日本政府と交渉のためR.W.ケッター局長に随行。4月14日ローマに帰任。)
- 4月23日 アメリカ合衆国へ出張を命ぜられ出発。(ウィスコンシン大学で世界の農地制度にかんする講演。5月4日ローマに帰任。)
- 7月31日 オーストリア・チェコスロバキア・ポーランド・ハンガリーおよびユーゴスラビアの各国を旅行。8月17日ローマに帰任。)
- 10月22日 ユーゴスラビア連邦共和国スローベニア共和国に招待され農業事情視察。(同月26日ローマに帰任)
- 昭和51年(1976)
- 1月1日 マルタを旅行。(同月4日ローマに帰任)
- 3月20日 タイへ出張を命ぜられ出発。(国連食糧農業機構主催アジア総合農村開発センター設立のための準備会議出席のため、あわせて日本に賜暇をとり帰国。4月21日ローマに帰任。)
- 7月11日 ソビエト連邦を旅行。(7月18日ローマに帰任)
- 8月14日 連合王国を旅行。(8月21日ローマに帰任)
- 昭和52年(1977)
- 2月13日 スペインおよび西ドイツを旅行。(2月25日まで。翌26日フランクフルトより日本にむけ出発。)
- 2月27日 帰国、職務に復帰させられる。
- 3月27日 次男俊郎、岡田万里子と結婚。

4月1日 指定職にせられる。

4月17日 三男武郎，井内千都和結婚。

昭和53年（1978）

1月31日 孫本岡俊哉出生